



代表取締役社長 廣瀬 武氏

メーカーレポート(3) 企画力・管理能力をさらに強化し ユーザー&社会からの評価を高めていく

ユニフォームレンタル事業を核に、常に業界のリーディングカンパニーとして、その発展に寄与して来た、新日本ウエックス(株)(本社・名古屋市、廣瀬武代表取締役社長)。廣瀬社長は、社日本リネンサプライ協会協会会長に加えて、今年3月設立された「日本テキスタイルサプライ協議会」の会長に選任され、名実ともに業界リーダーとして活躍中。同社の現状と業界の新しい取り組みを聞いた。

市場全体のパイは拡大している

清潔で審美性豊かなユニフォームのレンタルビジネスで、ホテル・フードサービス業界で絶大な信頼を得ているのが、新日本ウエックス(株)。ICチップによる管理システムを構築して、ユニフォームを着ごとに管理、出荷から現場での使用回数・洗濯回数までを的確に把握している。「WEX LIVE」というWebサイトでクライアントに公開している。清潔・安全を

モットーに、付加価値の高いサービスを提供しており、リネンサプライ業界のリーディングカンパニーの地歩を固めつつある。

そのユニフォームレンタルの市場動向と同社の対応について、廣瀬社長は次のように語る。

「長引くデフレスパイラルが、シテイホテル、チェーンレストランなどの経費節減傾向を一段と強めており、ユニフォームレンタルについても、品質・サービスよりも価格を抑えることに目がいっているところが増えています。居酒屋などでは、ユニフォームは「自洗」という店も増えており、衛生面で不安がある、顧客に不快な印象を与える、など自縄自縛と言える現象も見られます。安ければ品質・サービスは問わない、といった買い方が、ユニフォームレンタルの分野でも見られるのは残念ですが、少な

くとも、安心・安全で清潔な品質のユニフォームを常時着用できる環境を守ってほしいと思います。当社では、ISO9001と、国際品質規格RALによる品質基準を全社で統一し、高品質なユニフォームのレンタル事業を押し進め、より付加価値の高いサービス提供に努めます」

こうした、ホテル・レストラン業界の動向は見られるものの、ユニフォームレンタル市場全体としては、パイは拡大しつつある、という。同社では、食品加工、製菓の工場からの受注が伸びており、特に衛生面の完璧性が求められる両業種への対応として、松戸の新工場(昨年1月稼働)にクリーンルームを設置して、雑菌防除、異物混入防止などに成果を上げている。この成功を基に、さらに5工場にクリーンルーム設置が進行中である。

省資源・エコへ積極的に取り組む

地球温暖化防止への企業努力も早くから続けている。名古屋の2工場などでは、RO膜(逆浸透膜)によるろ過装置の導入で、約80%の洗濯水の再利用を可能にしている。また、松戸工場を皮切りに独自の熱回収システム・プロジェクトを推進しており、省資源・エコロジ

への貢献を果たしている。

廣瀬氏は「ユニフォームレンタル業として顧客から信用・信頼を獲得するためには、企画力、管理能力が優れていなければならないのは、もちろんです。それに加えて、省資源、地球温暖化防止など、企業の社会的責任を果たすことが不可欠です」と強調する。

こうした企業努力、そして、ユニフォームレンタルなど、繊維製品レンタルクリーニング業の社会への貢献が、まだ社会的に十分に認められていないのが実情。廣瀬氏が音頭をとって「日本テキスタイルサプライ協議会」を設立したのも、この壁を破って、業界の社会的地位の向上を目指してのものだった。「レンタルクリーニングの4団体が結束すれば、発言力も強まり、社会的地位の向上のための認識も新たになると思います。年間7600億円の市場を持つ業界だから、その地位を正當に評価されるよう協議会としてアピールしていきたいと考えています」とも言う。

ユニフォームレンタル業界の今後については、業界再編成の不可避を前提とし、淘汰の波に流されないためにも専門性とサービスマインドを兼ね備えていくことが肝要である、と廣瀬氏は見ている。